平成11年6月
12巻2号

日本口腔インプラント学会誌

Journal of Japanese Society of Oral Implantology

日口腔インプラント誌
J. Jpn. Soc. Oral Implant.

ISSN 0914-6695

1999
日本口腔インプラント学会

B-2　サイナスリフトにおける洞内隔壁

(厚生歯科)
*(神歯大・解剖)
渡辺　孝夫，清水　治彦，日高　豊彦
高橋　常男*

インプラントのための上顎洞底骨造成術（いわゆるサイナスリフト）は上顎骨頬側壁を開窓し，その開窓部を通うして洞粘膜を挙上，洞底部に骨造成をはか

る．本術式では開窓部の位置，形態，大きさの決定要因として下方は上顎洞底線，前方は洞前壁線，上方限界は眼窩下孔，そして後方は頬骨弓基部が考えられている．さらにこれらの解剖学的要因に加えて洞内に存在する隔壁も重要である．

今回，本院にてサイナスリフト術を施術した患者について術前のCT scan写真を資料に隔壁の存在，部位を検索した．

その結果，今回検索した25人33洞の患者のうち，8人11洞（36.4%）にCT写真上で隔壁がみられた．その部位は頬骨弓下稜より前方にみられたものが6洞，後方が8洞で，頬骨弓下稜の部分にはみられなかった．さらに歯牙部位別では第二大臼歯相当部の隔壁（TW隆起）は8洞にみられ，最も頻度が高かった．今回の検索でサイナスリフト術は予定した部位の上顎洞に比較的高い頻度で隔壁がみられた．このことから術前に隔壁の存在，その部位を確認することが重要であると考えられた．